

## 町民まちづくり懇談会

令和元年6月17日(月)	18時30分～	遠浅公民館
6月18日(火)	18時30分～	早来町民センター
6月20日(木)	18時30分～	追分公民館
6月21日(金)	18時30分～	安平公民館

### 1. 開 会

### 2. 挨拶

### 3. 案件

- (1) 復興まちづくり計画策定について…資料1
- (2) 町民意向調査中間報告…資料2
- (3) 意見交換

### 4. その他

### 5. 閉 会

## 安平町震災復興基本方針（概略版）

### ■ 計画策定の趣旨

この震災復興基本方針は、甚大な被害をもたらした胆振東部地震からの復興に向け、今後のまちづくりの基本的な取組みの方向性を示すもので、この基本方針に基づき、第2次安平町総合計画等を踏まえながら、復興に向けた総合的な計画として、安平町復興まちづくり計画（以下「復興計画」という。）を策定します。

### ■ 計画期間

第2次安平町総合計画中期基本計画の一部という位置付けから、計画期間は 2019 年度から 2022 年度までの4年間とします。

ただし、震災からの復興のためには、長期的な視点を持って取り組むべき課題も多く、2023 年度以降については、後期基本計画（2023 年～2026 年）の中で復興後のまちづくりに関する内容を盛り込み継続して取り組んでいくこととします。

### ■ 計画の基本方針

町民、地域、企業、行政が総力を結集して、震災前より元気で魅力的な安平町の復興に向け、以下に示す4つの基本方針に基づき復興計画を策定します。

#### （1）住まいと暮らしの再建

被災者が安心して快適に暮らせる住環境を一日も早く実現するために、住宅再建への支援や災害に対応した公営住宅等の建設検討を進めるとともに、生活再建と安全・安心な生活環境づくりを進めるため、被災者の暮らしに必要な生活機能や教育環境、保健、医療、福祉の横断的な連携による体制の確保・充実に向けた取組みを進めます。

#### （2）災害に強いまちづくり

今回の震災を踏まえ、単に震災前の町の姿を復旧するだけでなく、住民の命を守り、災害に強いまちづくりの実現に向けて、想定外を想定内とする防災意識の向上に向けたソフト面の充実と、防災上必要なインフラ整備等を進めます。

#### （3）産業・経済の再生

今回の震災で甚大な被害を受けた農業、商業、工業等の各産業が、早期に復旧し、雇用を維持するとともに、地域の活力を取り戻すための取組みを進めます。

#### （4）未来へつなげる復興

復興は、単に安平町を元の姿に戻すだけでなく、町民が夢をもって暮らし続けることができるとともに、誰もが住んでみたいと思える、未来へつなげる復興に向け、地域資源を最大限に活かした、新しい安平町を創造していきます。

### ■ スケジュール

◇ 次回まちづくり懇談会 8月予定

◇ 計画策定期間……令和元年 12 月（2019 年 12 月）

# 安平町復興まちづくりに関する意向調査 結果概要

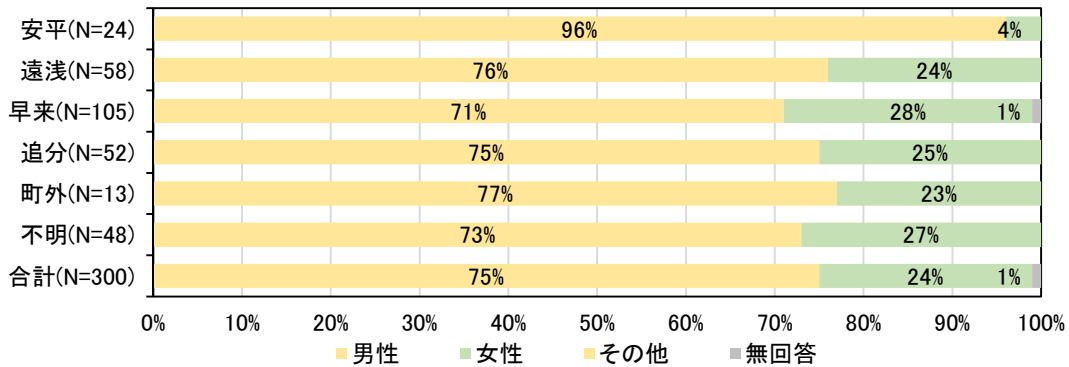
## ■調査概要

- 調査期間：令和元年5月17日～令和元年6月3日
- 配布先：安平町全世帯及び町外避難世帯
- 配布数：4,095通、回収数：1,585通、回収率：39%（令和元年6月6日時点）  
※ただし現在の集計は300通を対象としている

### 問1 あなたの性別について

- 回答者の性別は75%が男性で24%が女性、1%が無回答であった。
- 安平地区では回答者24名のうち96%が男性と他地区と比較して、男性の回答割合が高い。

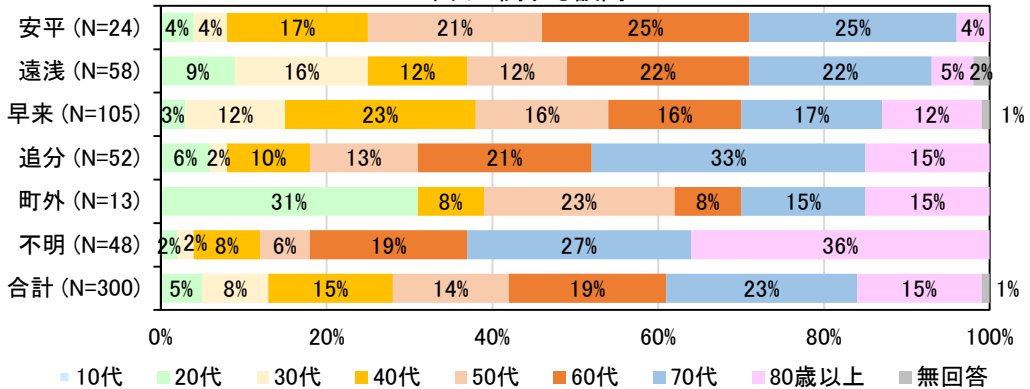
性別に関する設問



### 問2 あなたの年代について

- 年代に関する回答は、10代が回答者なし、20代が5%、30代が8%、40代が15%、50代が14%、60代が19%、70代が23%、80歳以上が15%、無回答1%であった。
- 回答者のうち約6割が60代以上となっており、特に追分では7割が60代以上と高齢者の割合が高い。

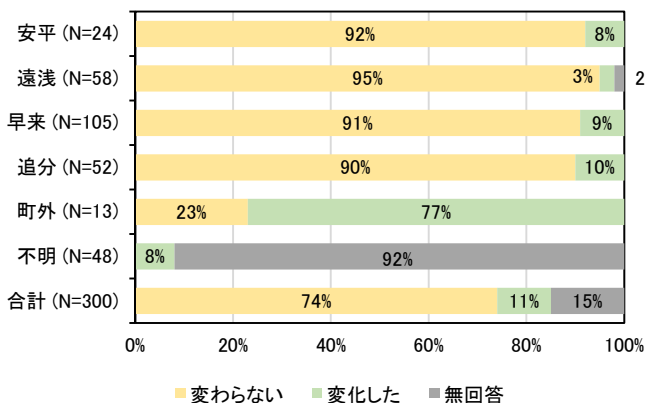
年代に関する設問



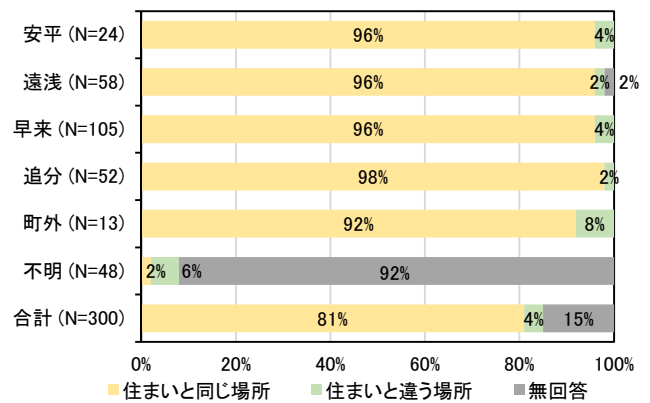
### 問3 震災前後の住まいと地震発生時にいた場所

- 震災前後の住まいに関する設問では、変わらないが74%、変化したが11%、無回答が15%となっており、1割の回答者が居住地が変化している。
- 震災時の居住地と震災時にいた場所が異なる回答者は4%で、8割以上が居住地で被災している。

震災前後の住まいに関する設問



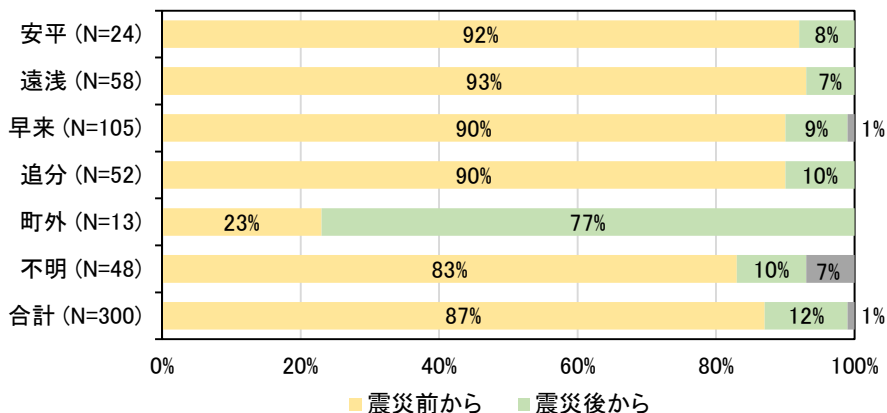
震災時と震災発生時にいた場所に関する設問



#### 問4 現在の住まいの状況

- 現在の住まいに関する回答は、震災前から住んでいるが87%、震災後からが12%、無回答1%である。
- 震災をきっかけとした住まいの変更は1割となっているが、現在町外に在住している回答者の8割は震災後との回答となっており、震災によって転居を余儀なくされたことが伺える。

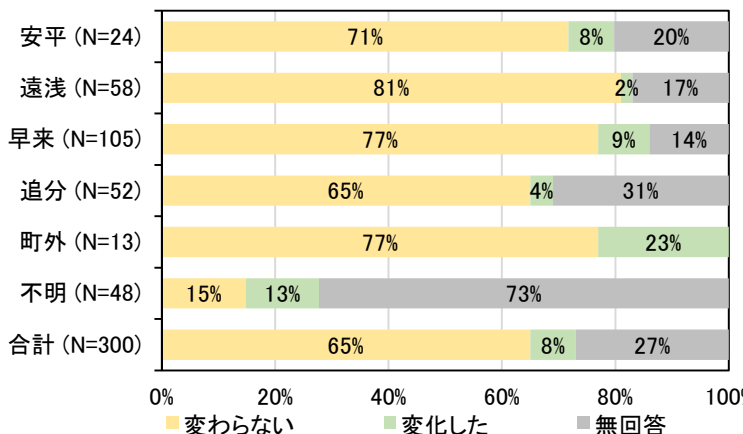
現在の住まいに関する設問



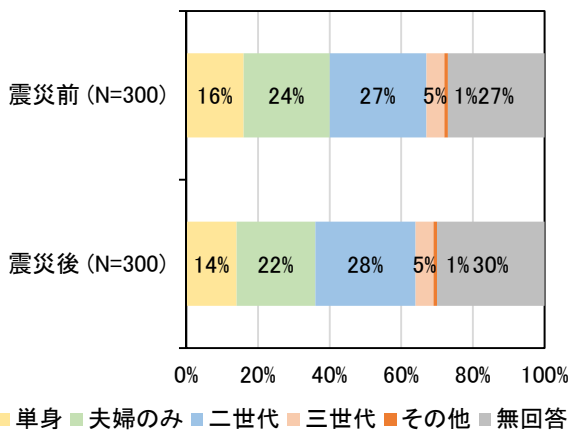
#### 問5 震災前後の世帯構成

- 震災前後の世帯構成の変化は、変わらないが65%、変化したが8%、無回答が27%となっている。
- 世帯構成は、夫婦のみ（震災前24%、震災後22%）及び二世帯（震災前27%、震災後28%）の割合が高い。

震災前後の世帯構成の変化に関する設問



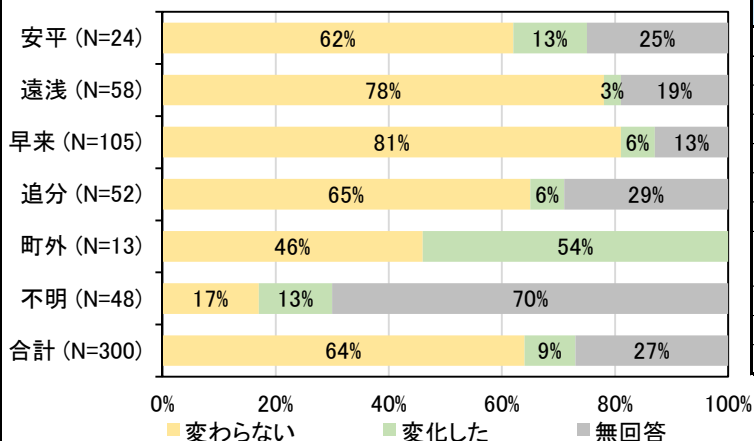
震災前後の世帯構成の割合(合計の数値)



#### 問6 震災前後の住まいの種類

- 震災前後の住まいの種類は、変わらないが64%、変化したが9%、無回答が27%となっている。
- 住まいの種類は、震災前が持家(戸建)の割合が45%となっていたが、震災後は38%に低下している。震災後は無回答が増加している。また、仮設住宅の居住者は7名(300名のうち)となっている。

震災前後の住まいの種類に関する設問

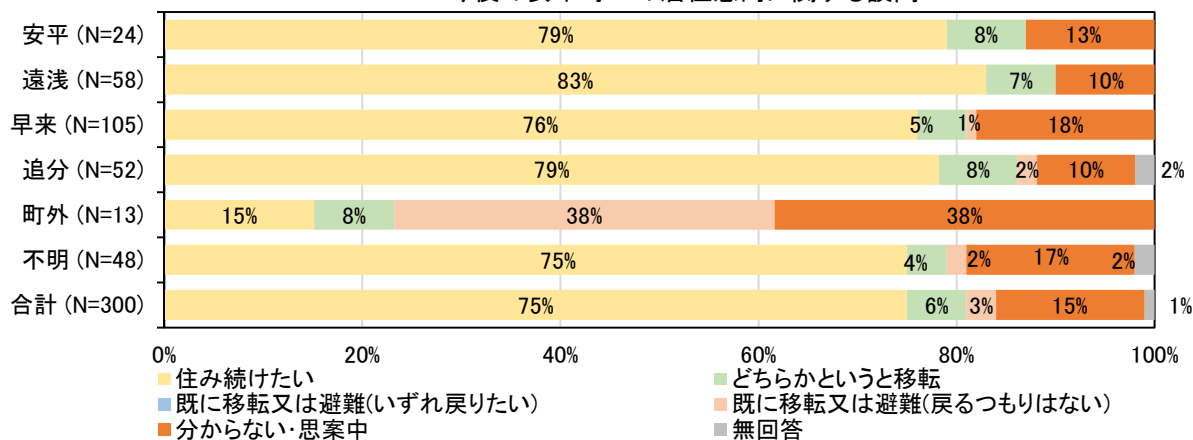


	震災前 (N=300)	震災後 (N=300)
持家(戸建)	45%	38%
持家(集合住宅)	2%	1%
借家(戸建・集合住宅)	11%	11%
町営・公営住宅	7%	8%
社宅	5%	5%
福祉施設	1%	1%
間借・下宿・寮	2%	2%
仮設住宅 (みなし仮設・トレーラーハウス等)	0%	2%
その他	1%	2%
無回答	26%	30%
合計	100%	100%

### 問7 今後の安平町への居住意向

- 今後の安平町への居住意向では、75%が住み続けたいと回答している。
- 一方、町外の回答者は、既に移転又は避難（戻らないうも）が38%、同様に、分からない・思案中も38%となっており、既に移転又は避難している回答者でいずれ戻りたい、の回答者はみられなかった。

今後の安平町への居住意向に関する設問



### 問8 安平町に住み続けるか・移転するか・戻るか判断するうえで重視すること

- 安平町に住み続けるか・移転するか・戻るか判断するうえで、最も重視されている事項は、買い物、子育て、教育、健康、医療、福祉等の環境充実（40%）であり、次いで、自宅の再建や住まいの確保（33%）、仕事（32%）が続いている。
- 一方、町外では、自宅の再建や住まいの確保が5割を超えており、町外へ転居を余儀なくされている回答者への対策が急務であることが伺える。

	安平地区 (N=24)	遠浅地区 (N=58)	早来地区 (N=105)	追分地区 (N=52)	町外 (N=13)	不明 (N=48)	合計 (N=300)
自宅の再建や住まいの確保	29%	22%	37%	42%	54%	23%	33%
地震からの安全性の確保	21%	24%	30%	31%	23%	17%	26%
買い物、子育て、教育、健康、医療・福祉等の環境の充実	33%	40%	49%	42%	15%	29%	40%
地域コミュニティ、家族や知人など人間関係があること	25%	40%	29%	23%	15%	29%	29%
道路、橋、公共施設など町全体の復旧復興の状況	25%	9%	24%	23%	23%	15%	19%
仕事	29%	38%	38%	31%	23%	19%	32%
特に重視するものはない	13%	14%	5%	2%	8%	15%	8%
その他	4%	3%	3%	12%	15%	4%	5%
無回答	8%	5%	7%	6%	8%	23%	9%

※最も回答割合が高い項目に着色

## 2. 北海道胆振東部地震発生時の状況

### 問9 震災直後の地震や避難に関する情報源

- 震災直後の地震や避難に関する情報源は、ラジオが最も高く48%、次いで、テレビ（地上波/BS）が38%となっている。
- また、近所の方や地域の方からも28%みられ、地域コミュニティの重要性が伺える結果となっている。

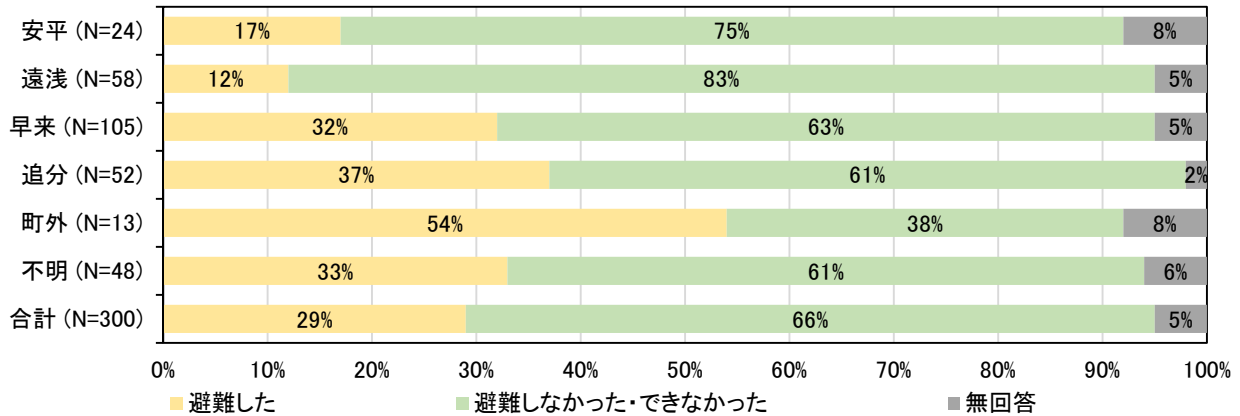
	安平地区 (N=24)	遠浅地区 (N=58)	早来地区 (N=105)	追分地区 (N=52)	町外 (N=13)	不明 (N=48)	合計 (N=300)
ラジオ	42%	60%	47%	52%	46%	33%	48%
テレビ(地上波/BS)	54%	29%	25%	58%	23%	50%	38%
あびらチャンネル	—	12%	6%	8%	—	13%	8%
インターネット等	4%	31%	23%	4%	23%	19%	19%
防災無線放送	—	3%	2%	4%	—	4%	3%
近所の方や地域の方から	25%	31%	25%	40%	23%	23%	28%
仕事先の同僚や知人から	8%	12%	13%	13%	15%	4%	11%
情報を入手できなかった	4%	5%	17%	10%	15%	4%	10%
その他	8%	12%	8%	2%	—	10%	8%
無回答	4%	3%	8%	4%	8%	6%	6%

※最も回答割合が高い項目に着色

### 問10-1 地震直後の避難

- 震災直後の避難について、避難したが29%で、避難しなかった・できなかったが66%、無回答が5%となっており、避難しなかった・できなかったの割合が高い。
- 地区別には、安平、遠浅が避難率が2割未満と低い。一方、町外の回答者は5割以上が避難したと回答するなど、避難率に関しては地区別に差がみられる結果となった。

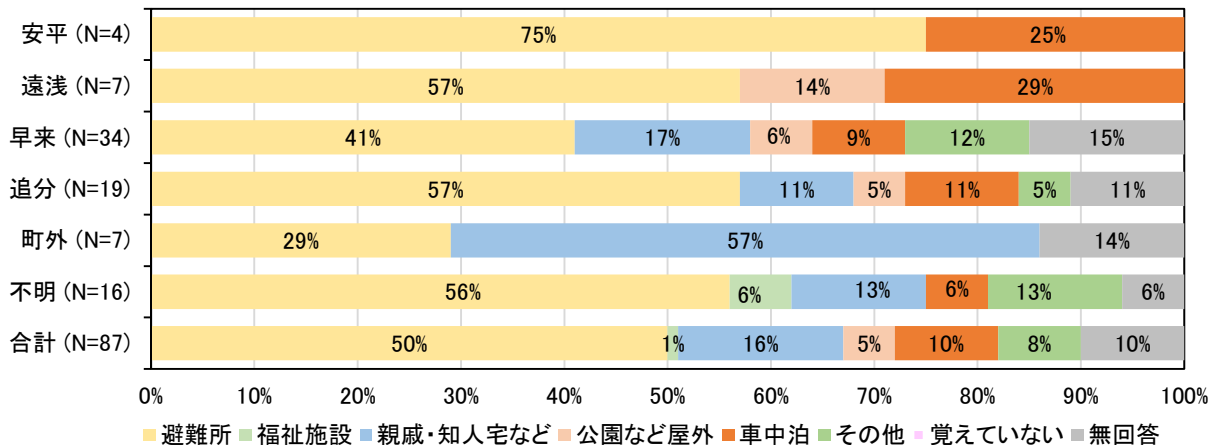
地震直後の避難に関する設問



### 問10-2 一番最初に避難した場所

- 一番最初に避難した場所は50%が避難所である。地区別では、安平地区、遠浅地区で車中泊が多く、町外では親戚・知人宅などが多い結果になるなど、地区別に最初に避難した場所に差がみられる結果となっている。

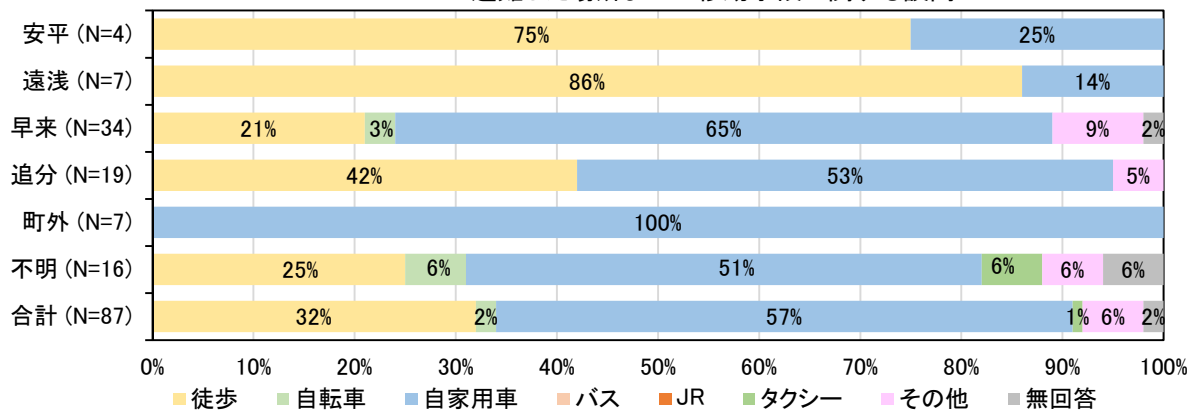
一番最初に避難した場所に関する設問



### 問10-3 避難までの移動手段

- 避難した場所までの移動手段は、自家用車の割合が最も高く57%となっている。地区別では、安平地区、遠浅地区が徒歩の割合が高く、町外では親戚・知人宅に避難している回答者が多いことから自家用車での移動が多くなっている。

避難した場所までの移動手段に関する設問



問10-4 避難した場所で足りなくて困ったこと

- 避難場所で足りなくて困ったことは、地域間で格差があったが、概して、避難所での水・食料の確保が課題であることが伺える。
- その他、携帯電話充電器が21%と通信環境の整備も課題となっていたことが伺える。

	安平 (N=4)	遠浅 (N=7)	早来 (N=34)	追分 (N=19)	町外 (N=7)	不明 (N=16)	合計 (N=87)
生活用水	25%	57%	35%	47%	57%	19%	38%
飲料水	50%	29%	38%	32%	29%	31%	34%
食料	—	57%	38%	16%	14%	13%	26%
タオル	—	—	12%	—	—	—	5%
携帯電話充電器	25%	29%	29%	11%	14%	13%	21%
段ボールベッド	—	—	18%	5%	14%	—	9%
衣類	—	—	18%	11%	29%	6%	13%
紙おむつなど育児用品	—	—	—	—	—	—	—
医薬品	—	—	18%	—	—	13%	9%
特に困らなかった	25%	29%	24%	26%	29%	31%	26%
その他	—	—	21%	16%	—	6%	13%
無回答	—	—	6%	11%	—	19%	8%

※最も回答割合が高い項目に着色

問11-1 避難した理由（問10-1で避難したを選択した回答者）

- 避難した理由は、停電や断水など自宅で生活するのが不安な状態だったからが55%で最も高く、次いで、余震がまだ続くと思ったからとなっている。
- どの地区でも概ね上記2つの回答割合が高いが、安平地区及び遠浅地区では、自治会町内会や家庭内でその場所に避難することを決めていたからの割合が高く、日常の防災意識が高かったことが伺える。

	安平地区 (N=4)	遠浅地区 (N=7)	早来地区 (N=34)	追分地区 (N=19)	町外 (N=7)	不明 (N=16)	合計 (N=87)
自治会町内会や家庭内でその場所に避難することを決めていたから	50%	43%	12%	21%	—	19%	18%
警察や町の職員などに避難するよう呼びかけられたから	—	14%	3%	16%	29%	6%	9%
自治会町内会など地域の人に避難するよう呼びかけられたから	—	14%	15%	16%	14%	—	11%
近所の人がある所に避難すると言っていたから	—	14%	3%	—	—	—	2%
自宅建物が壊れ、中で生活することができなくなったから	—	14%	18%	16%	—	13%	14%
停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状態だったから	50%	71%	65%	42%	29%	56%	55%
まだ余震が続くと思ったから	25%	29%	68%	53%	43%	38%	52%
その他	25%	14%	15%	5%	29%	25%	16%
無回答	—	—	3%	—	—	6%	2%

※最も回答割合が高い項目に着色

問11-2 避難しなかった理由（問10-1で避難しなかった・できなかったを選択した回答者）

- 避難しなかった理由は、町外を除き自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったからが最も高い結果となった。
- 町外では、治療中の家族がいたためなどの意見が挙げられている。

	安平地区 (N=18)	遠浅地区 (N=48)	早来地区 (N=66)	追分地区 (N=32)	町外 (N=5)	不明 (N=29)	合計 (N=198)
自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったから	56%	81%	76%	78%	20%	72%	74%
避難場所までの移動が困難だったから	—	2%	3%	9%	20%	10%	5%
病人や身体が不自由な家族がいて、避難するのが困難だったから	6%	2%	2%	6%	—	—	3%
どこに向かえばよいのかわからなかったから	11%	—	5%	9%	—	3%	5%
家族の安否が確認できなかったから	—	—	2%	—	—	—	1%
避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから	—	—	2%	3%	—	3%	2%
その他	22%	17%	17%	3%	60%	7%	15%
無回答	6%	6%	6%	6%	—	10%	7%

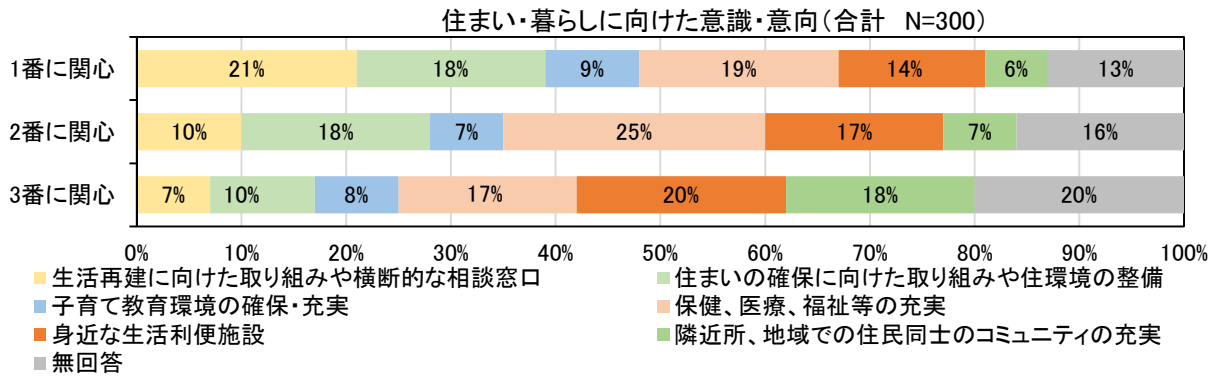
※最も回答割合が高い項目に着色



### 3. 復興まちづくりに向けた意識・意向について

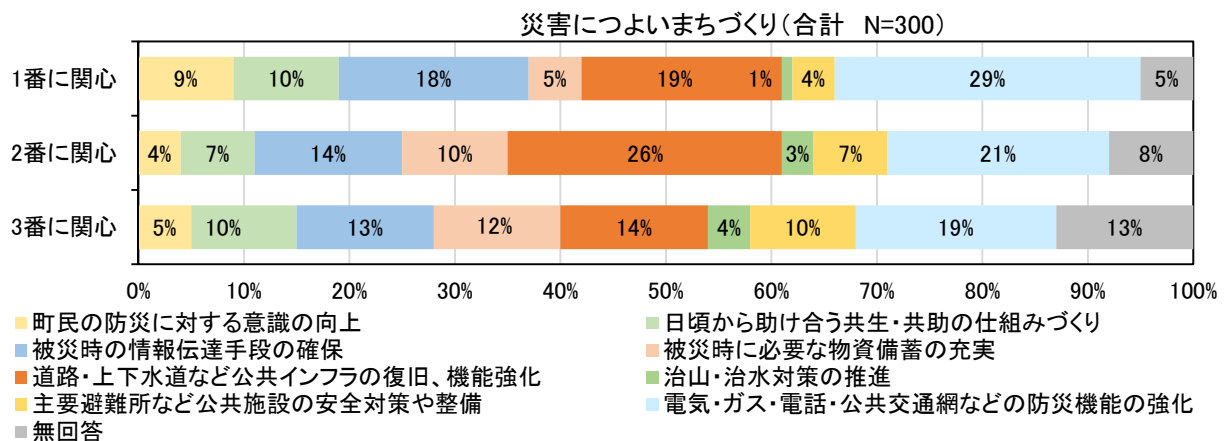
#### 問13 住まい・暮らし

- 「1番に関心がある」で最も割合が高い事項は、生活再建に向けた取り組みや横断的な相談窓口になっている。「2番目に関心がある」では、保健、医療、福祉等の充実、「3番目に関心がある」では、身近な生活利便施設の割合が最も高い。
- また、住まいの確保に向けた取り組みや住環境の整備については、「1番に関心がある」、「2番に関心がある」で上位に位置づけられており、住まいに関する事項も高い関心が示されている。



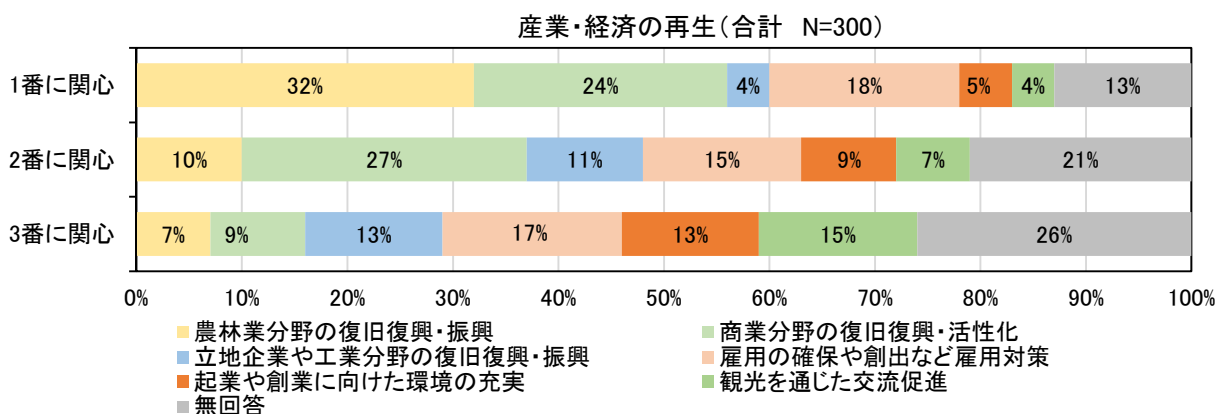
#### 問14 災害につよいまちづくり

- 「1番に関心がある」で最も割合が高い事項は、電気・ガス・電話・公共交通網などの防災機能の強化となっている。「2番目に関心がある」では、道路・上下水道など公共インフラの復旧・機能強化で、「3番目に関心がある」では、再度、電気・ガス・電話・公共交通網などの防災機能の強化となっている。
- また、被災時の情報伝達手段の確保も高い関心が示されており、多様な情報伝達手段の活用が必要であることが伺える。



#### 問15 産業・経済の再生

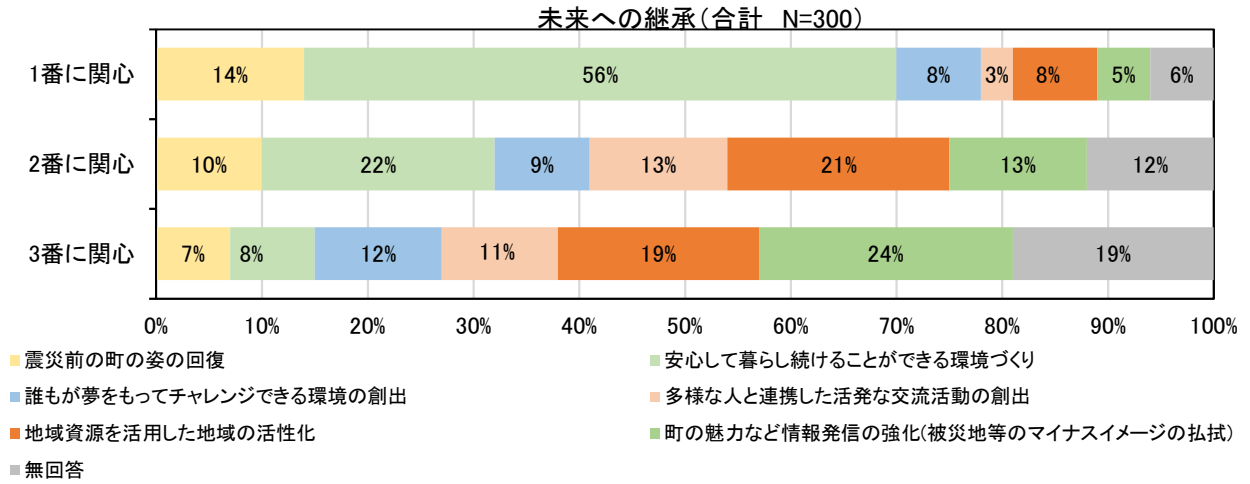
- 「1番に関心がある」で最も割合が高い事項は、農林業分野の復旧復興・振興となっている。「2番目に関心がある」では、商業分野の復旧復興・活性化で、「3番目に関心がある」では、雇用の確保や創出など雇用対策となっている。





問 1 6 未来への継承

●「1 番に関心がある」で最も割合が高い事項は、安心して暮らし続けることができる環境づくりとなっている。「2 番目に関心がある」でも、安心して暮らし続けることができる環境づくりとなっており、「3 番目に関心」があるでは、町の魅力など情報発信の強化（被災地等のマイナスイメージの払拭）の割合が最も高い。



問 1 7 今後の安平町の復興まちづくりに関する意見